

平成三年（1991）

平成の快進撃  
春の選抜準優勝、夏ベスト8、秋の国体優勝

第六十三回選抜高校野球大会 怒涛の進撃、強豪次々撃破し準優勝

三月二十九日、1回戦は愛知代表愛工大名電と対戦した。松商・上田と愛工大名電・鈴木の投げ合いとなったが、上田は無安打1三振に抑え、花岡の決勝打で、3―2で勝った。愛工大名電の鈴木一朗は、後のイチローで、オリックスブルーウェーブで活躍し、アメリカにわたり、大リーグ（マリナーズ―NYヤンキース）でも大活躍している。

四月一日、2回戦は奈良代表の天理と対戦。天理は近畿大会一位の優勝候補筆頭。前年夏の甲子園優勝校であり、谷口功一（ドラフト1位で巨人）は大会ナンバーワン投手といわれていたが、7安打で2点をとり、2―0で勝った。

四月三日、準々決勝は大阪桐蔭と対戦。1回戦で仙台育英をノーヒットノーランに抑えた和田友貴彦投手がいたが、3―0で破り、上田は26イニング無失点。ここからは連戦となるため、生徒の応援団は奈良県天理市の天理教の宿泊所に泊まることになった。

四月四日、準決勝は東京代表国士館と対戦した。昨年秋季の明治神宮野球大会準決勝で対戦し、4―10で敗れており、雪辱を期していた。投手戦となったが、代打中島の右前適時打で決勝点をあげ、1―0で勝ち、上田投手は35イニング無失点で決勝進出を決めた。学校は、翌日に入学式を控えているため、応援引率で来ていた職員のうち関係職員だけ松本へ帰ることになった。

四月五日の決勝戦は広陵と対戦した。広陵とは長い歴史の中で何度も対戦してきたが、決勝での対戦は、大正十五年の第三回全国選抜中等学校野球大会以来の対決だった。六回まで3―2と有利に進めていた。七回、荒井の2点本塁打でリードを広げると、アルプススタンドは歓喜で沸きかえった。しかし、その裏に同点とされ、九回裏、疲れの出た上田が交代し

て入った右翼の頭上を打球が越えてサヨナラとなってしまった。しかし、応援席には選手たちの健闘を讃える声があふれた。松本に戻ると、学校のグラウンドに仮設ステージがつくられ、大勢の生徒、市民が集まって、賑やかな準優勝祝賀会が開かれた。ステージに監督、部長、首からメダルをかけた選手達が並ぶと、活躍をねぎらう大きな拍手が鳴り響いた。



広陵との65年ぶりの決勝対決で選抜準優勝  
4月5日（於）甲子園球場

【決勝戦 広陵戦】

- ④ 荒井敏幸
- ⑧ 清沢悦郎
- ② 辻利行
- ①⑨ 上田佳範
- ⑨① 中島尚彦
- ⑤ 二村武忠
- ⑦ 花岡忠樹
- ③ 内藤玉樹
- ⑥ 高橋巧

長野県スポーツ栄誉賞受賞 新講堂で吉村午良県知事から授与

四月三十日、長野県は、今春の選抜高校野球大会で準優勝した松商学園高校硬式野球部に、長野県スポーツ栄誉賞を授与することに決定した。五月十一日、吉村午良県知事が来校し、新講堂で授与式が行われた。壇上に並んだ望月登野球部長、中原英孝監督、中島昭夫マネージャーと、辻利行主将はじめ、上田佳範投手ら十五人の選手たちひとりひとりに記念のメダルと、表彰状が贈られた。



### 松本市野球場落成記念試合

#### 上田・花岡・二村の本塁打などで深志に快勝

六月二十二日、松本市浅間温泉の松本市野球場落成記念試合が、伝統の松商と松本深志との間で行われた。

大正十五年に完成した松本県営球場は、昭和六十四年一月に松本市に移管された。松本市は市営の球場として整備することとし、総工費三十五億円で、平成元年十一月着工。両翼九十八メートル、中堅百二十一メートル、照明塔六基、内野は土で、外野は人工芝、収容人数二万五千人の国際規格をクリアした球場である。

松本地方の野球愛好家に親しまれてきた松商対松本深志戦は、七千人の観客が集まり、松商は上田と中島が好投し、上田・花岡・二村の本塁打もあり、7-0で快勝した。

#### 第八十四回春季北信越地区高校野球大会中信地区予選 圧倒的強さで優勝

春の選抜大会準優勝で大きな自信をつけて松本に凱旋した。五月四日、松本県営球場で2回戦松本蟻ヶ崎と対戦し、12-1、7回コールドゲームで勝った。五日、準々決勝信州工は、花岡、濱の本塁打と、中島投手の好投で、9-0の完封勝利。六日、準決勝は松本県ヶ丘と対戦し、岡元、二村の本塁打と、中島、大沢の継投で、14-0で下した。

同日、決勝松本深志と対戦し、清沢、花岡の本塁打などで、14-1、7回コールドゲームといずれも圧倒的な強さで、長野県大会に進んだ。

#### 第八十四回春季北信越地区高校野球長野県大会

##### 2季連続二十七回目の優勝

五月十八日、県内四地区から八校が集まって、上田市で長野県大会が始まった。

十八日、上田市営球場で1回戦は長野と対戦し、花岡の本塁打と、一年生の市川が好投して10-0、7回コールドゲームの完封勝ち。十九日、準決勝(代表決定戦)は東海大三と対戦し、辻、上田の本塁打などで、8-

6で勝った。

同日の決勝は佐久と対戦し、序盤、本塁打などで先制されるが、地力を発揮して9-7で振り切り、2季連続通算二十七回目の優勝を果たした。

#### 第八十四回春季北信越地区高校野球大会 星稜に敗れ準優勝

六月一日、新潟市営鳥屋野球場と小針球場を会場に、春季北信越地区高校野球大会が開かれた。松商は各県優勝校のうち三校がいる激戦ブロックに入った。

一日、鳥屋野球場で1回戦は地元新潟明訓と対戦し、延長十回、6-4で破った。二日、準々決勝は福井代表福井と対戦して9-8で勝った。三日、準決勝は石川代表金沢対戦し、延長十回、5-4で振り切った。いずれもきわどい試合を勝ち抜いて決勝までのはった。

同日、決勝は石川代表の星稜と対戦し、二村の本塁打も出たが、7-8の1点差で敗れ、準優勝に終わった。この試合、星稜の松井秀喜に本塁打を打たれた。

#### 第七十三回全国高校野球選手権長野大会 春に続いて甲子園へ

七月十三日、新装なった松本市野球場で全国高校野球選手権長野大会は、九十六校が参加して開幕した。第五十回大会以来の、全校参加しての開会式の選手宣誓は松商の辻利行主将。辻主将は、「大きな夢を目標に、正々堂々戦うことを誓います」と、力強く宣誓した。今年から新しい優勝旗も朝日新聞社から寄贈され、旧優勝旗は最多優勝校松商に贈られることになった。



5年ぶり27回目の甲子園へ  
7月27日 (於)松本市野球場



七月十八日、松本市野球場で2回戦から登場。昨年の優勝校丸子実と対戦し、上田の本塁打などで、5―0で勝った。二十日、3回戦は穂高商と対戦し、8―1、8回コールドゲームで下した。この試合で、初回、一番荒井が負傷退場というアクシデントがあった。二十二日、4回戦は伊那北と対戦し、二村の本塁打などで、7―0、7回コールドゲームで勝った。二十五日、松本県営球場で準々決勝東海大三と対戦し、辻の本塁打などで、8―2で勝った。二十六日、松本市野球場で準決勝の長野南は10―3で退けた。

二十七日、決勝は佐久と対戦。春の北信越地区高校野球長野県大会決勝と同じカードとなった。松商は春夏連続甲子園出場を向け、佐久は初優勝を目指して激突したが、戦前の松商有利の予想通り、7―3で破り、五年ぶり二十七回目の甲子園出場を決め、真新しい優勝旗を先頭に、新球場での記念すべき優勝行進でダイヤモンドを一周した。

**第七十三回全国高校野球選手権大会 準々決勝星稜に敗れるもベスト8**

八月十日、岡山東と対戦し、15長短打を放ち、6―2で勝った。長野県勢十年ぶりの初戦突破となった。春の選抜準優勝という活躍もあり、六千人を超える大応援団でアルプススタンドは超満員となった。二村は一試合2本塁打を放ち、通算二十四人目、二十六度目の記録となった。

十五日、終戦記念日に滋賀代表八幡商と対戦し、8―3で勝った。打線好調で13安打で8点をあげ、岡元は3安打（三塁打2、



四日市工戦延長16回、上田死球で劇的幕切れ

二塁打1）3打点の当たりに当たった。十八日、三重代表四日市工と対戦。延長十六回、三時間四十六分を戦った。十六回裏の満塁からの上田への死球という劇的な幕切れで、4―3のサヨナラで、昭和十五年以来の五十一年ぶりのベスト8となった。上田は207球を投げた。

**【準々決勝 星稜戦】**

- ⑤ 二村 武
- ⑧ 小口康生
- H8 中島尚彦
- ② 辻 利行
- ① 上田佳範
- ⑦ 花岡 忠
- ⑨ 岡元直衛
- PR 清沢悦郎
- ③ 宮澤太一
- ④ 濱 栄行
- ⑥ 高橋 巧
- PH 荒井敏幸

十九日、準々決勝は石川代表星稜との対戦。星稜とは春の北信越地区高校野球大会決勝で対戦して7―8で敗れていた。前日の四日市工戦の激闘から二十四時間も経っていなかった。前半0―2とリードされ、追撃したが、2―3で及ばなかった。上田は松井秀喜（巨人―N.Y.ヤンキース）に対して4回対戦し、2四球2三振だった。

**第八十五回秋季北信越地区高校野球大会中信地区予選 県ヶ丘を破り優勝**

新チーム編成で、濱栄行が主将に、青柳重樹がマネージャーに就いた。九月十五日、松本市野球場で1回戦明科と対戦し、宮澤の本塁打などで、7―0、7回コールドゲームで勝った。十六日、松本県営球場で2回戦豊科と対戦し、12―4で勝った。二十二日、松本市野球場で準々決勝信州工と対戦し、5―3で勝った。二十三日、準決勝松本深志と対戦し、9―3で勝った。二十八日、決勝は松本県ヶ丘と対戦し、接戦を制し、2―1で勝ち、優勝した。